

平成30年度

社会福祉法人 緑新会

事業報告(抜粋)

令和元年5月31日に理事会を、6月21日に評議員会を開催し、平成30年度事業報告及び決算報告について承認をいただきましたので、ご報告させていただきます。なお、本広報紙においては書面も限られていますので、正式な事業報告書は当法人の施設玄関に備え付けています。閲覧は自由となっておりますのでご意見等を聴かせていただければ幸いです。

1 はじめに

平成29年度は社会福祉法人制度改革が実施され、変革を迎えた年となったが、平成30年度においては熊本県社会福祉法人経営者協議会での最も大きなテーマのひとつが「外国人労働力の導入」をはじめとする福祉人材の確保が課題となって取り上げられた年でもありました。緑新会では九州中央リハビリテーション学院や熊本県社会福祉協議会と情報交換を密に行い、昨年の6月に公益事業の中に、「社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業」を定款に位置付けし、外国人留学生に対する修学資金の支援を行ってきました。人材の確保という課題は、介護事業のみならず少子高齢化と言われる現在においては、どの職種においても問われることであり、今後は外国人労働者に対しての指導やコミュニケーションの構築に努めていきたいと考えています。

全国社会福祉法人経営者協議会における取り組み課題として示された、アクションプラン2020において示されている14の長期ビジョンに基づき、社会福祉法人緑新会においても昨年に引き続き5項目を重点課題と位置付け、運営に努めてきました。また、緑新会では理念に位置付けられている「地域における、地域のための、地域に開かれた生活必需施設」として、地域を見つめながらの取り組みを行ってきたところであります。

2 事業の推進

本年度は平成11年4月より実施してきたデイサービスセンターたんぼぼを休止し、「地域密着型特別養護老人ホーム新和苑あがんなっせ」に併設した「デイサービスセンターあがんなっせ(定員4名/日)」を、「グループホームしんわ」に併設した「デイサービスセンターしんわ」の2ヶ所を、地域密着型認知症対応型通所介護事業としてスタートしました。「デイサービスセンターたんぼぼ」は、平成11年4月にデイサービスE型としてスタートし、小規模で認知症の方が毎日通ってこれる通所事業として特性のある事業として行ってきましたが、ここ数年は利用者の減少によりやむを得ず、休止に至る状況になりました。

3 研修関係

本年は例年実施している県社協、老施協、水俣研修等(動き出しは当事者から...)への取り組みを行ってきました。研修を行っていく上で課題も見えてきたように感じています。

職員自らが必要とする研修(自らが求めていく研修)に視点を置き換えて、スキルを高められる研修を実践していきたいと考えています。また研修の振り返りを更に重ねていくためにも職員会議で行っている出張報告の追加報告も取り組んでいきたいと考えています。

4 法人運営について

30年度は理事会を3回開催、26議案について審議を行い、評議員会は1回開催し、3の議案について審議を行っていただきました。今年度については人材育成のための修学資金制度の立ち上げについても審議を行い、天草圏域における社会福祉法人として、最初の取り組みを行ってきたところであります。また事業運営の透明性を図るためにも、現況報告書・貸借対照表・収支計算書等についても法人のホームページに順次掲示を行っていくと同時に、法人内でのさまざまな行事についても情報提供を行っていきます。

今回役員の変更を迎え、新たな体制で運営にあたっていきたいと考えています。役員名は以下のとおりとなっております。

(敬称略)

理事長 船元隆之

理事 田嶋賢司

理事 蓑田弥博

理事 野崎政次

理事 宮崎みだ子

理事 柳 圭子

監事 上原晴喜

監事 松田洋典

評議員 上原達哉

評議員 野中清也

評議員 長元法喜

評議員 森下康寛

評議員 富田まゆみ

評議員 松尾英之

評議員 浦部和子